

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第228集

周防畠遺跡群 下北原遺跡Ⅱ

長野県佐久市長土呂下北原遺跡Ⅱ発掘調査報告書

2014

佐久市教育委員会

# 周防畠遺跡群 下北原遺跡Ⅱ

長野県佐久市長土呂下北原遺跡Ⅱ発掘調査報告書

2014

佐久市教育委員会

## 例　　言

- 1 本書は佐久市による平成26年度斎場施設建設事業（進入道路築造及び代替地の造成）に伴う周防  
烟遺跡群下北原遺跡IIの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 佐久市（環境部新クリーンセンター・斎場整備推進室）
- 3 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地 周防烟遺跡群 下北原遺跡II（SKHII） 佐久市長土呂
- 5 調査担当者 上原 学
- 6 本書の編集・執筆は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡　　例

- 1 遺構の略称は以下のとおりである。  
II - 積穴住居址 D - 土坑 P - ピット
- 2 掘図の縮尺は以下のとおりである。  
遺構 - 積穴住居址・土坑・ピット 1/80  
遺物 - 土器・石器1/4
- 3 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
- 4 遺構の標高は、水糸高を標高とした。
- 5 調査グリッドは4×4mである。
- 6 遺物表中の〔 〕は推定値、〈 〉は残存値を表す。
- 7 スクリーントーンの表示及び遺構の計測、長軸方向は以下のとおりである。



地山断面



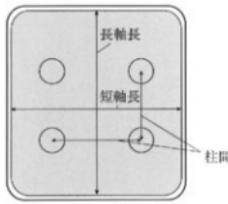
床下



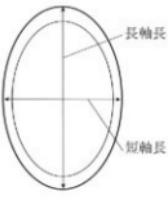
焼土



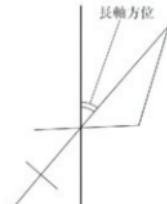
赤色塗彩



積穴住居址



土坑



長軸方位

## 目 次

例言・凡例

### 目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
第1節 発掘調査の経緯	1
1 開発事業と保護協議	1
2 文化財保護手続き	2
3 調査体制	2
第2章 発掘作業の経過	3
1 発掘作業	3
(1)遺跡の名称と割合	3
(2)遺構の名称と記号	3
(3)調査区の設定	3
(4)調査の方法	3
(5)日誌	3
2 整理作業	4
(1)整理の内容	4
(2)資料の収納	4
(3)日誌	4
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	6
第3節 発見された遺構と遺物	10
第4節 基本層序	10
第Ⅲ章 遺構と遺物	13
第1節 積穴住居址	13
第2節 土坑	13
第3節 ピット	15
第4節 遺構外遺物	22

写真図版

抄録

## 第Ⅰ章 発掘調査の経緯

### 第1節 発掘調査の経緯

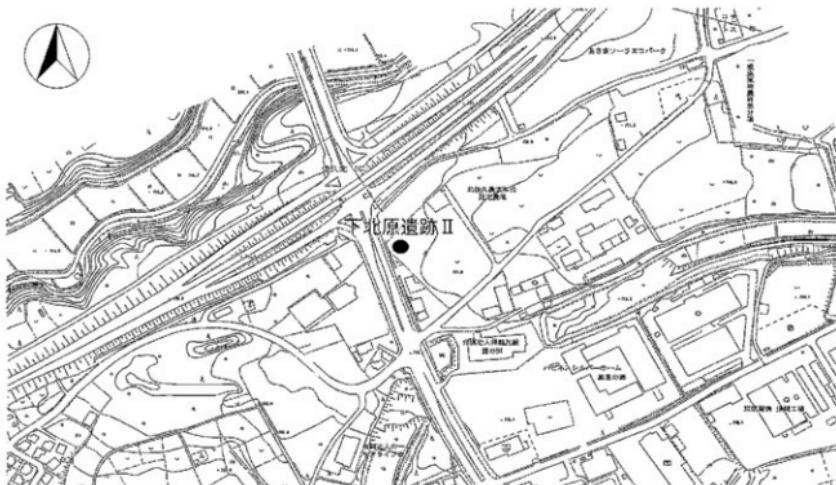
#### 1. 開発事業と保護協議

周防畠遺跡群は佐久市長土呂に所在し、佐久地域特有の浅間山の麓から放射状に延びる浸食谷に挟まれた南北方向に細長い台地上（田切り地形）に展開する、弥生時代から中世に至る複合遺跡である。特に遺跡群南の佐久平駅北側周辺地域は、遺跡の密集する地域として周知されており、道路改良、区画整理事業、店舗建設等に伴う多くの発掘調査が実施されている。調査対象地は、遺跡群北方の、南に向かって緩やかな傾斜を示す台地北端部に位置し、標高は737.5m内外を測る。開発地域近隣における代表的な調査としては、北方の田切り対岸において中部横断自動車道建設に伴い県埋蔵文化財センターが実施した鎌田原遺跡の調査があり、古墳時代前期及び平安時代末の住居址等が発見されているが、遺跡群南方の遺跡密集地に比べると希薄な地域である。

今回、佐久市環境部新クリーンセンター・斎場整備推進室による斎場建設、進入道路築造及び代替地の造成事業に伴い、開発地域一帯が周防畠遺跡群に含まれることから事業課と文化財保護協議を重ね、試掘・確認調査を実施する運びとなった。平成24年12月には斎場建設予定地、平成26年3月には進入道路部分及び代替地の試掘・確認調査を実施し、後者から竪穴住居址・上坑等の遺構が発見された。そのため再度文化財保護協議を行い、遺構の発見された進入道路及び代替地部分の発掘調査を佐久市教育委員会が主体となり実施した。



周防畠遺跡群 下北原遺跡II位置図 (1:50,000)



周防畳遺跡群 下北原遺跡II位置図 (1:5,000)

## 2. 文化財保護手続き

平成24年10月 2日

土木工事のための埋蔵文化財発掘の通知（94条書類）  
(斎場施設建設)

平成24年10月15日 周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成24年12月 5日 試掘調査等終了報告（県・開発主体者）

平成25年12月26日 土木工事のための埋蔵文化財発掘の通知（94条書類）  
(進入道路築造及び代替地の造成)

平成26年 1月20日 周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成26年 3月13日 試掘調査等終了報告（県・開発主体者）

平成26年 6月 3日 発掘調査終了報告

平成26年 6月 3日 埋蔵物発見届

平成26年 6月25日 埋蔵文化財の認定通知

平成26年12月 願与申譲

## 3. 調査体制

### 調査受託者

佐久市教育委員会 教育長 土屋盛夫（～平成26年5月） 柳澤晴樹（平成26年5月～）  
事務局

社会教育部長 山浦俊彦

文化財課長 三石宗一

文化財調査係長 比田井清美

文化財調査係員 小林眞寿 富沢一明 上原学 神津一明 久保治一郎

嘱託職員 林幸彦

調査主任 森泉かよ子

調査担当者 上原 学

調査員 赤羽根充江 清沼勝男 磯貝律子 岩崎重子 岩松茂年 小幡弘子

神津千春 小島真 小林節子 中澤登 羽毛田利明 比田井久美子

## 第2節 発掘作業の経過

## 1. 発掘作業

## (1)遺跡の名称と記号

遺跡は佐久市長土呂に所在し、事業予定地が佐久市遺跡詳細分布図により、周防畠遺跡群に含まれている。また、周辺地域で道路改良事業時に伴い、周防畠遺跡群下北原遺跡の調査が実施されていることから、本事業に伴う発掘調査の遺跡名を「周防畠遺跡群 下北原遺跡Ⅱ」と名付けた。略号は「SKH II」とした。

## (2)遺構の名称と記号

H - 積穴住居址（底面を円形や方形に掘りくぼめ、柱穴・炉・カマド等を設けた住居と考えられるもの。佐久市では明らかに平地住居と考えられる遺構は発見されていない。）

D - 土坑（底面を円形や方形に掘りくぼめた、窓穴・貯藏穴・ゴミ穴等と考えられるもの。ピット・窓穴状遺構と区別するため、僅または長径が0.9m以上2.5m未溝を土坑とした。）

P - ピット（底面を円形や方形に掘りくぼめ、柱状のものを残してたと思われるもの。土坑と区別するため、基本的に僅が0.9m未溝とした。）

## (3)調査区の設定

調査区上に国家座標（世界測地系）に基づく40×40mの大グリッドA～Cを設定し、これを更に4×4mの小グリッドに分割した交点に、木製の遺構測量用基準杭を打設し、頭部に釘を設置。グリッド名は、大グリッド（A～C）を北から南方向にひらがな（あ～お）、東から西方向に数字（1～10）を使用して小グリッドに分割し、グリッド名A-あ-1グリッドのように設定した。

## (4)調査の方法

調査は、重機により遺構確認面まで表土を除去し、排出土は事業予定地内の指定場所に移動した。その後、人員による遺構の掘り下げは、4区画（I～IV区）に分割し、対角のI・III区を床面まで掘り下げ、セクション図作成後、層ごとに床面まで完掘を実施するが、今回は小規模住居であったことから、2分割で掘り下げを行った。床面検出後は、壁溝・ピット等を確認し掘り下げた。写真撮影、平面図作成を実施し、住居址掘方には、掘り下げ後、写真撮影及び図面の追加作成を行った。遺物は、地区ごとに取り上げた。遺跡・遺構の全体写真は各遺構の調査が終了した時点で撮影した。遺構の平面図作成は調査区内に設定した基準杭を利用した遺方測量により、調査担当・調査員が実施し、縮尺は1:20を基本とした。写真撮影は担当者が行い、デジタル一眼レフカメラと35mmフィルム一眼カメラによるカラーリバーサルで行った。

## (5)日誌

平成24年11月27・28日	斎場建設予定地の埋蔵文化財試掘等調査。
平成26年 3月10～12日	進入道路及び代替地の埋蔵文化財試掘等調査。
3月13日～	文化財保護協議。進入路及び代替地部分において遺跡の広がりが確認された地域の発掘調査を実施する運びとなった。
4月30日～	重機による表土除去・駐車場整地・廃土処理作業開始。
5月 2日	簡易トイレ・ハウス等設置。遺構検出作業。
5月 7・ 8日	遺構検出作業。機材搬入。
5月 9・10日	砂石敷き・整地作業。
5月12・13日	遺構検出作業。
5月14・15日	基準杭設定。遺構検出作業。遺構掘り下げ。（III-D4・D5等）
5月16日	H1・D1～D8・ピット掘り下げ、図面作成、検出作業。
5月19日	H1・D3・D8掘り下げ。ピット・土坑平面図作成。全体清掃作業。
5月20日	全体清掃作業。調査区全体写真撮影。一部機材搬出。
5月21～23日	ピット平面図作成。一部機材整理作業。
5月26・27日	重機による遺構埋め戻し及び調査区の整地作業。
5月28～30日	簡易トイレ・ハウス等撤去作業。器材搬出作業。

## 2. 整理作業

### (1) 整理の内容

整理作業は現場作業雨天時及び終了後に図面整理・図面修正・写真整理・遺構・遺物図版作成・遺物洗浄・遺物注記・遺物接合・遺物実測作業・遺物写真撮影・割付本作成・原稿執筆・印刷製本・遺物・図面収納作業を実施した。

遺物実測は調査員が1/1で鉛筆実測したものを、1/2でトレースし、報告書掲載時の縮尺を基本的に1/4とした。

遺構図版は、1/40で鉛筆による仮削付を行った後、製図ベンにてトレースを実施し、報告書掲載時の縮尺を基本的に1/80とした。

報告書の原稿はマイクロソフト社製「ワード」、表原稿はマイクロソフト社製「エクセル」を使用し、遺構・遺物写真撮影はニコンD90を使用した。

### (2) 資料の収納

作業が終了した図面は、原図・印刷用図版一式をファイルに収納、写真はアルバムに収納したネガ・データと共に文化財課耐火収納庫に保管した。遺物は、報告書掲載図版と照らし合わせ、遺構ごとにコンテナへ入れた後、報告書使用遺物と未使用遺物を分けて文化財課遺物保管施設に収納した。

### (3) 日誌

平成26年 5月 8日～10月21日

図面整理・図面修正・写真整理・遺構・遺物図版作成・遺物洗浄・遺物注記・遺物接合・補修復・遺物実測作業・遺物写真撮影・割付本作成・原稿執筆。

10月 3日～ 印刷製本・遺物・図面収納作業実施。

12月19日 佐久市埋蔵文化財調査報告書第228集 周防畠遺跡群 下北原遺跡Ⅱ刊行。

## 第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境

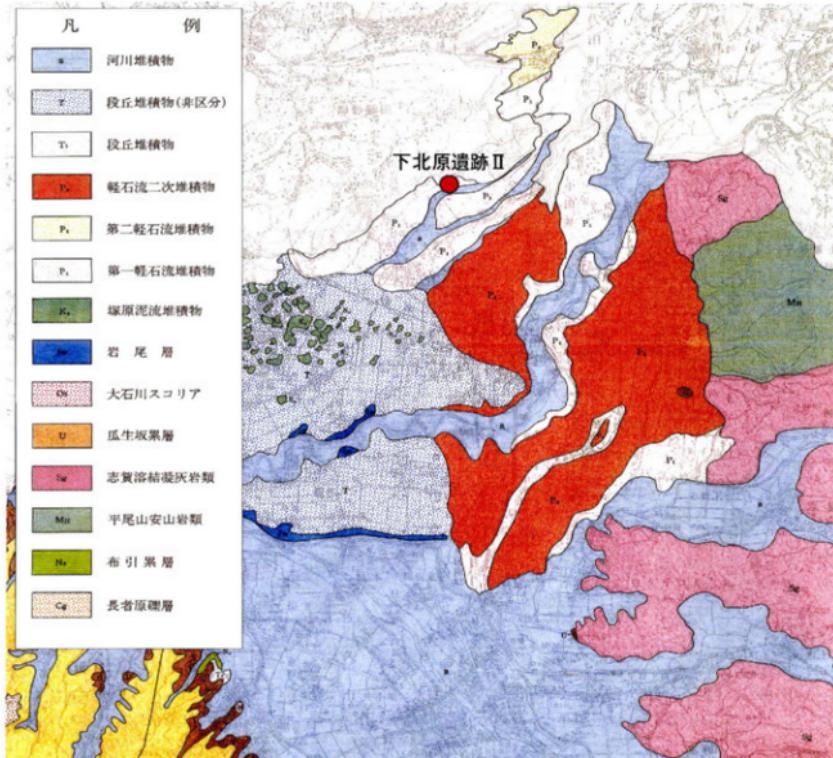
佐久地域は、周辺を山地台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北には雄大な浅間山、南には蓼科山が存在する。東には群馬県との境を成す北関東山脈の北端が延び、西は御牧原・八重原といった小高い台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。佐久地域における水系の代表は、南方の川上谷に源を発す千曲川であり、北流しながら支流を集めつつ水量を増して佐久平に入る。その



佐久平北部地域航空写真（南から）

後野沢付近から流れを北西に変え、蓼科山麓の支流を集めた片貝川、浅間山の麓に源を発す湯川、関東山地からの支流を集めた滑津川といった河川と合流し、蛇行しながら上田、長野方面に貫流する。この山地に開まれ、水にも恵まれた盆地状の佐久平は、地質学的に見ると大きく二分することができ、志賀川と滑津川が合流し、さらに千曲川と川筋を一つにする東西線を境として、河川の北側段丘上と南側では20m前後の比高差が認められる。この北部地域は北方の浅間山麓部の緩やかな台地で、浅間山の噴出物である火碎流・軽石流と降下火山灰が厚く堆積し、雨水による浸食によって、浅間山の麓から放射状に幾筋もの浸食谷（田切り地形）を形成している。

これに対し南部地域は千曲川の氾濫源沖積地と滑津川の谷口扇状地等で、河床疊層と沖積粘土層地帯が主となり地下水位も高く、地盤の安定した土地である。このため南部一帯は広く水田として利用されていた。



佐久市地質図（佐久市志自然編から）

ここで、下北原遺跡IIが所在する佐久市北部地域における環境の成り立ちを若干述べてみたい。地質構成の基本となっている浅間山は黒班山・前掛山・中央釜山の三重式成層火山で標高は2,568mを測り、現在も数年ごとに小規模な噴火をくり返している。近年で記憶に残る噴火は、平成16年（2004）に中規模噴火が発生し、空高く立ち上る黒煙と共に周辺地域に火山灰を降らしている。

浅間山の歴史をみると、噴火口の東に位置する黒班山は、最盛期には、現在の浅間山をしのぐ標

高2,800mを測る大型の成層火山であった。しかし、東側半分以上を失う大爆発によって、その姿を失ってしまった。このとき、大量の土砂が西側を駆く周辺地域に流れ出している（塚原泥流）。黒班山の南方には特に多くの土砂が流れ落ち、佐久地域では塚原・赤岩・平塚地域周辺まで到達し、地表は凹凸の激しい地形へ変貌したと推察される。

黒班山が崩壊した後、現在の浅間山の姿に成長する過程で多量の噴出物によって佐久市北部地域は埋め尽くされ、その厚さは20~30mに達している。少なくとも2度に渡り軽石流が堆積したと考えられ、第1、第2軽石流（P1, P2）と呼ばれている。これが泥流によって形成された凹凸面を平坦化し、新たな生活面をつくり出した。泥流の先端地域にあたる塚原・赤岩・平塚一帯には泥流の名残を現在も見ることができ、周辺で点々と存在する小高い墳丘は、泥流の最も高い部分が軽石流に覆われることなく残った残丘である。古墳時代には、古墳の土台として多く利用され、一帯ではいくつもの古墳群が形成されている。

この軽石流によって平坦化された広大な台地は、雨水等の浸食に弱く、長い年月によって深く削り取られ、いくつもの細長い台地に変貌させた。これを田切り地形と呼んでいる。佐久市北部地域の遺跡分布状況を見ると、この浅間山の麓から緩やかに傾斜する細長い台地上に多くの遺跡が所在している。

今回、調査対象となった周防畠遺跡群下北原遺跡IIは、浸食谷（田切り地形）に挟まれた南北方向に細長い台地北西端の標高737.5m内外に位置している。

## 第2節 歴史的環境

旧石器時代－周辺地域において確認された遺跡は認められない。市内では、佐久平周辺の丘陵地帶において遺跡が発見されている。東方の香坂川流域に展開する八風山遺跡IIから始良Tn火山灰（A T）・八ヶ岳4テフラ降灰以前の石器群が、八風山遺跡IV A～C地点では、付近で産出するガラス質安山岩を使用しての石槍製作跡が、発見されている。また、南部の蓼科山麓に所在する、立科F遺跡においても始良Tn火山灰（A T）降灰以前の石器群が発見されている。

縄文時代－周防畠遺跡群内では、南西方向の台地先端付近で行われた道路改良に伴う調査から後期の遺物が出土し、近隣では漫食谷を隔てた南に位置する芝宮遺跡群から土器片が出土しているが、発見される遺構・遺物は僅かである。比較的まとまった遺構・遺物が発見されているのは、北西の漫食谷を隔てた台地上に所在する西近津遺跡群である。集落住宅建築に伴う西近津遺跡VII（8）からは、中期末～後期の土坑と遺物が確認され、中でも後期掘い内式鋸鉢・土偶・石棒・石劍は、形状も良好で貴重な資料である。また、道路改良工事に伴う西近津遺跡III・IV・V（9）の調査からも中期後半～後期の土坑、遺物が発見されている。西近津遺跡群周辺では一定の遺構・遺物は認められるが、住居址は未だ発見されず、集落が形成された形跡は今のところ確認されていないのが現状である。佐久市内において、集落が形成される地域は、いずれも佐久平周辺に張り出す丘陵地帯末端付近の台地上及び丘陵地を背負った河岸段丘上から発見される傾向が認められる。周防畠遺跡のような平坦地ではなく、発見される遺構が土坑・路穴といった遺構に限定されることから、本格的な集落は形成されず、狩り場的な使用がされていたと推察される。

弥生時代－前期は近年発掘調査例は確認され始めているが、佐久市全域をみても数は少ない。代表的な遺跡は、南東方向の湯川右岸に下信濃石塚跡（57）が所在する。この時期としては比較的まとまった遺物が出土し、土器底部2点の放射性炭素年代測定では $2,400 \pm 30$ 、 $2,440 \pm 30$ という年代が得られている。佐久市内では中期後半から河川沿い及び低地周辺の緩高地上に大規模な集落が形成され始めるが、周防畠遺跡群内では本格的に集落が増加するのは後期になってからのようである。南西方向の微高地先端付近で道路改良に伴い行われた若宮遺跡IV（13）、道常遺跡（13）、南近津遺跡III（13）、宮の前遺跡I・II（13）の調査では後期の遺構・遺物が多数発見されている。また、高速道路建設に伴い西近津遺跡群内で行われた発掘調査では、長辺18mを測る後期の大型住居址が発見され、注目された。中期後半の遺跡は、やや南方の湯川沿岸地域に沿って形成されたようで、右岸の北西の久保遺跡（48）、西一本柳遺跡（49）、左岸の根々井芝宮遺跡等、多くの遺跡が存在する。

古墳時代－まず集落だが、前期は、弥生時代中期後半から激しく遺跡数が増加したにもかかわらず、発見される遺跡数が激減し、発見される集落は小規模である。本遺跡で発見された住居址1軒は、この時期と考えられる。周辺では南西の漫食谷を隔てた北近津遺跡II（10）からS字状口縁を持つ壘を伴う弥生時代末～古墳時代初頭の住居址が数軒発見されている。また、糸堀藏文化財センター

が中部横断道建設に伴い実施した近津遺跡群内からは、前期前半の住居址等が比較的まとまって発見されている。遺跡数が増加するのはカマドが生居内に導入され始める中期後半(5世紀後半)になってからである。本遺跡群内では後期になり、南近津遺跡(13)、若宮遺跡(13)、宮の前遺跡I・II(13)等において遺構が多発見されるようになる。

佐久市における古墳は、河川の段丘地帯及び佐久平の尾根部からつき出した丘陵地の尾根上から緩やかな斜面上を中心して存在する。本遺跡群内では現在塗下に埋もれた可能性はあるものの、地上での観察で古坟は確認されない。周辺の遺跡群では、やや離れるが、南北方向の千曲川左岸に広がる台地上に下大豆原古墳群(39)、東池下古墳群(40)、大豆原古墳群(41)、家地頭古墳群(42)、姫小石古墳群(43)、豊原古墳群(44)等多くの古墳群が所在する。これらの古墳群は、周辺地域に残存する浅間山(黒毛山)の山体を吹き飛ばす噴火によって発生した泥流の残丘を利用して構築されているものが多い。調査例は、昭和50年には家地頭1号古墳の調査が行われ、破片資料ではあるが当時正式な発見としては初となる埴輪(大筒埴輪・形象埴輪)が出土し、注目された。昭和56年には家地頭古墳の北東に位置する下大豆原1号・2号古墳の調査が行われた。1号墳は石室の一郭を残す程度まで破壊が進んだ状態であった。2号墳は周辺地盤等による浅間の噴火によって形成された流山の残丘を利用して構築され、石室が一部露出し、天井石が崩落した状態であったが、1号墳に比べ良好な状態を示していた。平成3年には豊原古墳4・7・8・9号墳の調査が行われ、石室内から金属製品(直刀・金環等)、玉類(水晶製切子玉・丸玉等)が出土した。

また、浅間山の麓に源を発する湯川の段丘地帯及び東方の丘陵斜面にも古墳が認められ、横根古墳群、蛇塚古墳群(59)、北西の久保古墳群(48)等が所在する。

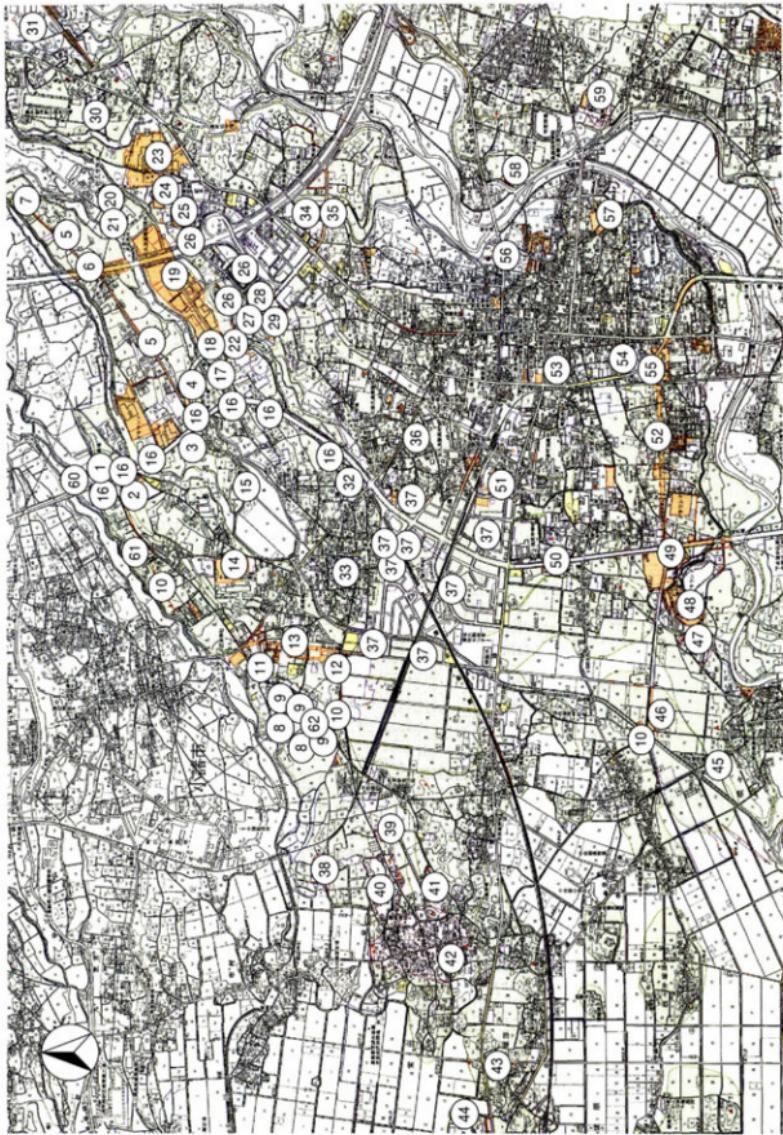
奈良・平安時代・周防郡遺跡群内では、下北原遺跡Ⅰから若干距離を置いた南北方向に広がる弥生～古墳時代の遺跡が密集する微高地に集落が展開する。道路改良及び区画整理事業に伴い調査を実施した若宮遺跡・道常遺跡・南近津遺跡・宮の前遺跡I・II・大豆原遺跡I・II・工場建設に伴い行われた南近津遺跡(11)から多くの遺構・遺物が発見されている。奈良時代の住居址は比較的掘り込みが深く、形態も整った方形を示す。三柱穴は4本を基本とし、明確な掘り込みが多い。平安時代の前半期は、奈良時代同様の規模を示すが、後半期は全体に規模の縮小が認められる。カマドの設置箇所も、北壁あるいは東壁中央付近が主体であったが、平安末には南東隅に移り、出土する遺物量も減少する。

No.	遺跡名	所在地	構造	標	基	中	塗	備考
1	下北原遺跡Ⅰ	長土呂	○	○				今松耕作
2	下豆原遺跡Ⅰ・Ⅲ	長土呂	○		○			H19・20年度調査 佐久市第153集
3	上高田遺跡Ⅰ	長土呂・上高田	○	○	○			H20年度調査 佐久市第13集
4	南・中原・南下中原遺跡	長土呂・中原他	○	○	○			H20年度調査 佐久市第23集
5	上豆原遺跡Ⅱ・Ⅳ	長土呂	○	○	○			H18・19年度調査 佐久市第89集
6	下豆原遺跡Ⅱ・Ⅴ	小豆井	○	○	○			H16・17年度調査 佐久市第88集
7	西原遺跡	長土呂・下中巣他	○	○	○			H4・6年度調査 奥利瀬文化センター第39集
8	下曾根遺跡Ⅲ	小曾根・穴太郎	○	○	○			H15・16年度調査 佐久市第133集
9	西高田遺跡Ⅲ・区	長土呂	○	○	○			H22・23年度調査 佐久市第207集
10	別所遺跡Ⅲ・IV・V	長土呂	○	○	○			H18・19年度調査 佐久市第205集
11	北近津遺跡Ⅰ	長土呂	○	○	○			H18年度調査 佐久市第165集
12	大字日向遺跡Ⅲ	長土呂	○	○	○			H21・22年度調査 佐久市第177集
13	日向日向遺跡Ⅲ	長土呂	○	○	○			H17・18年度調査 佐久市第196集
14	若宮遺跡	長土呂	○	○	○			H22・年度調査 佐久市第193集
15	若宮遺跡Ⅰ・Ⅱ	長土呂・下草原	○	○	○			H23・7年度調査 佐久市第69集
16	上高田遺跡	長土呂・上高田	○	○	○			H24年度調査 佐久市第9集
17	下高田遺跡	長土呂・下高田	○	○	○			H25年度調査 佐久市第9集
18	二高田遺跡	長土呂・上高田	○	○	○			H26・G3・H24年度調査 佐久市第9集
19	下豆原遺跡Ⅰ・IV	長土呂・下豆原他	○	○	○			H28年度調査 佐久市第9集
20	上水木遺跡	長土呂・大林他	○	○	○			H29・2年度調査 佐久市第9集
21	下豆原遺跡Ⅰ・Ⅱ	長土呂・下豆原	○	○	○			H30年度調査 佐久市第9集
22	下豆原遺跡	長土呂	○	○	○			H31年度調査 佐久市第9集
23	上高田遺跡Ⅰ	長土呂	○	○	○			H32年度調査 佐久市第26集
24	上高田遺跡Ⅱ	長土呂	○	○	○			H33年度調査 佐久市第26集
25	豆原遺跡	長土呂・宇原	○	○	○			H34・7年度調査 佐久市第103・107・115・122・28集
26	豆原遺跡Ⅱ	長土呂・宇原	○	○	○			H35年度調査 佐久市第10集

周辺遺跡表(1)

No.	道跡名	所在地	緯度	經度	古文	中	近	備考
21	豊原道跡跡	愛知県豊原市			○			H5 年度調査 佐久市第 33 号
22	豊原道跡Ⅱ	愛知県豊原市上野宿			○			H7 年度調査 佐久市第 55 号
23	豊原道跡跡	-			○			H8・9 年度調査 佐久市第 88 号
24	上保根道跡	-			○			H12 年度調査 佐久市第 5 号
25	上保根道跡Ⅰ	-			○			H1 ~ 4 年度調査 佐久市第 18 号
26	豊根新道跡：～V、V-	愛知県新道跡			○			
V-VI	豊根新道跡：～V、V-	豊根市宇摩曾根			○			HII ~ 5 年度調査 佐久市第 41 号
27	豊根新道跡Ⅲ	愛知県豊根新道			○			
28	上久保田向直通跡	岩村田市上久保田町			○			H6 年度調査 佐久市第 28 号
29	上久保田向直通跡	岩村田市上久保田町			○			H6 年度調査 佐久市第 25 号
30	下久保田向直通跡	岩村田市上久保田町			○			H4 年度調査 佐久市第 27 号
31	下久保田向直通跡	岩村田市下久保田町			○			H24 年度調査 佐久市第 210 号
32	豊石酒跡	愛知県豊石町			○			S03・H1 年度調査 佐久市第 3 号
33	豊山稻荷跡	愛知県豊山町			○			H12 年度調査 佐久市第 94 号
34	豊山稻荷跡	愛知県豊山町			○			
35	豊山稻荷跡	愛知県豊山町			○			H14 年度調査 佐久市第 112 号
36	豊山稻荷跡	愛知県豊山町			○			H2 年度調査 佐久市第 11 号
37	上直通跡	岩村田市上直通町			○			S50 年度調査 佐久市第 5 号
38	上直通跡	岩村田市上直通町			○			H7 年度調査 佐久市第 2 号
39	上直通跡	岩村田市上直通町			○			H8 年度調査 佐久市第 10 号
40	上直通跡	岩村田市上直通町			○			H10 年度調査 佐久市第 13 号
41	上直通跡	岩村田市上直通町			○			H9 ~ 1 年度調査 佐久市第 110 号
42	上直通跡	岩村田市上直通町			○			H10 年度調査 佐久市第 10 号
43	上直通跡	岩村田市上直通町			○			H11 年度調査 佐久市第 13 号
44	上直通跡	岩村田市上直通町			○			H11 年度調査 佐久市第 13 号
45	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			
46	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H13 ~ 7 年度調査 佐久市第 25 号
47	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H3 年度調査 佐久市第 9 号
48	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			S45 年度調査 「西一馬鹿瀬道跡調査会報」
49	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H9 年度調査 佐久市第 74 号
50	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			S57 ~ 59 年度調査 佐久市第 2 北側の久保
51	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H9 年度調査 佐久市第 73 号
52	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H11 ~ 3 年度調査 佐久市第 91 号
53	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H10 年度調査 佐久市第 8 号
54	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H11 ~ 4 年度調査 佐久市第 100 号
55	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H14 年度調査 佐久市第 13 号
56	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H5 年度調査 佐久市第 14 号
57	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H5 年度調査 佐久市第 15 号
58	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H18 ~ 19 年度調査 佐久市第 75 号
59	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H9 年度調査 佐久市第 154 号
60	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H23 年度調査 佐久市第 160 号
61	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H20 年度調査 佐久市第 169 号
62	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H8 ~ 9 年度調査 佐久市第 91 号
63	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			S88 年度調査 佐久市第 93 号
64	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H1 ~ 13 年度調査 佐久市第 122 号
65	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H14 年度調査 佐久市第 16 号
66	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H2 ~ 3 年度調査 佐久市第 165 号
67	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H2 ~ 5 年度調査 佐久市第 14 号
68	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H8 ~ 21 年度調査 佐久市第 175 号
69	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H19 年度調査 佐久市第 168 号
70	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H20 年度調査 佐久市第 85 号
71	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H2 ~ 9 年度調査 佐久市第 70 号
72	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H18 ~ 21 年度調査 佐久市第 75 号
73	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			S59 ~ 61 年度調査 佐久市「大井川跡」
74	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H16 年度調査 佐久市第 154 号
75	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			S59 年度調査 佐久市「大井川跡」
76	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			H16 ~ 8 年度調査 佐久市第 76 号
77	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			基盤圖文：別センター第 108 号
78	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			基盤圖文：別センター第 103 号
79	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			
80	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			
81	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			
82	豊ヶ井大塚古墳	岩村田市豊ヶ井町			○			

周辺道跡表(2)



周辺遺跡位置図

周辺の浸食谷を隔てた芝官遺跡群、長土呂遺跡群、西近津遺跡群等の発掘調査例からも、この時代、集落の形成が見受けられる。周防畠遺跡群・長土呂遺跡群などの遺跡周辺は、延喜式に記されている佐久郡8郷の一つである大井郷の比定地と推定され、猪廻裏査によって「大井」と記された墨書き・刻畫土器が発見されている。さらに、佐久市内において古瓦が出土する数少ない地域として以前から周知されており、周辺地域からは平瓦・丸瓦に加え、工場造成地の残土及び小学校建築に伴う調査等によって7世紀末と考えられる川原寺式軒丸瓦が発見されている。瓦を葺いたき窓など公的な建造物の存在が窺われる。また、付近は古晩白道が通過していたと推定されており、さらに、戸土呂遺跡群周辺に佐久郡衙が所在していた可能性も考えられていることから、周防畠遺跡群を含めた一帯に安定した集落が形成された要因になったと考えられる。

中世・近世・中世では、調査区周辺の遺跡が密集する地域に所在する遺跡（13）から15~16世纪と考えられる堅穴式遺構、二坑、井戸柱等の遺構が発見され、南方の湯川左岸に長土呂窑跡が所在する。長土呂窑跡を構えた人物の断定はできないが、佐久志には「鎌倉時代に北条氏に近い藤原氏によって構築されたと考えるのが妥当であろう」と記されている。遺跡は見た上はほとんど現存しないが、東西120m、南北135m程度の範囲の外側に濠を巡らせ、内側に15m程度の土塁があったと推定されている。また、北東方向の湯川右岸堅壁沿いに金井城（31）が存在する。発掘調査によつて遺跡の詳細が広い範囲で確認されている佐久盆地でも代表的な城郭である。城域は20万m<sup>2</sup>を越える広さを持ち、築城は16世紀代と考えられている。発掘調査は、昭和63年~平成2年にかけて工場団地造成工事に伴い約80,000m<sup>2</sup>の調査が実施された。三郭の一部、三路、北郭の大部分、外郭の1/3以上の構造が明らかとなり、城内からは堅穴建物址、土坑、掘立柱建物址、堀・溝状遺構、土塁陥落遺構が発見されている。さらに、金井城のやや下流である南北方向に細長い右岸段丘上には、大井氏の築城と考えられる大井城（56）（北から石並城・玉城・黒岩城）が存在する。現在岩村田市街地となっている周辺地域一帯は城下町として栄えていたとされ、大井城（黒岩城）の発掘調査からはすり鉢・石臼などの遺物が多数出土している。しかし、戰闘期に入ると、文明16年（1484）に村上氏の攻撃を受けるなど、幾度となく戦乱に巻き込まれ、衰退の一途をたどった。

この他にも、佐久市全域をみると多数の館跡、城跡が存在し、多くは、この地域特有の浅間山の麓から放射状に延びる浸食谷に分断された台地上及び佐久平に向かって東側の山地から突き出た丘陵地の自然地形を利用して築城されている。

### 第3節 発見された遺構と遺物

遺構 堅穴住居址-1号（古墳時代前期） 土坑-8基（縄文時代後期他） ピット-146個  
遺物 磁器土器（深鉢） 土器（鉢・高杯？） 石器（石鏡）

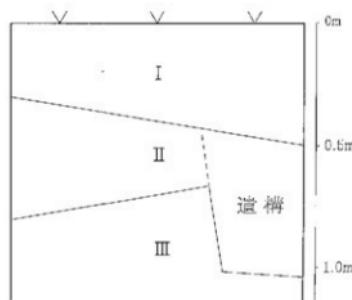
### 第4節 基本層序

遺跡は、浅間の麓から放射状に延びる浸食谷に挟まれた「田切り」地形の細長い台地北西端部に立地する。この付近は、現在の浅間山が形成される過程で噴出した軽石流が基盤となっており、この上に現在の表土である耕作土が覆っている。今回、調査を実施した地域の基本層序は以下のとおりである。

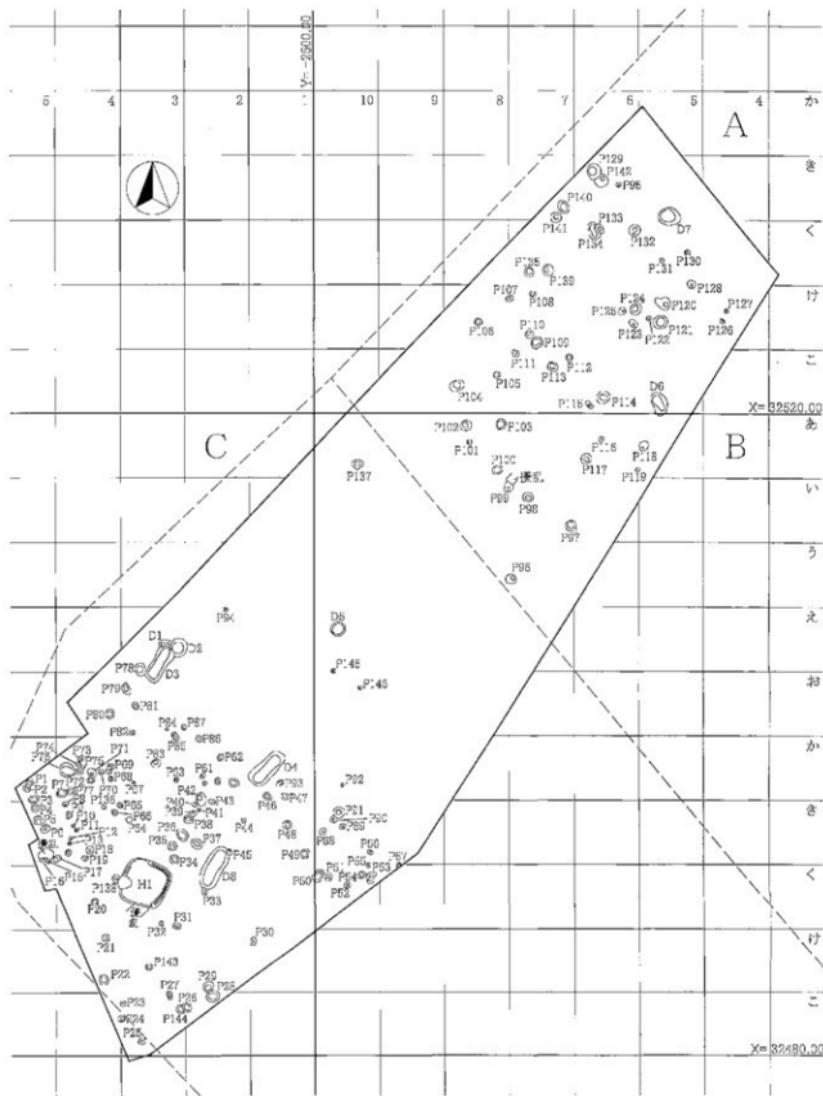
I層は層厚30~50cmを測る暗褐色土の耕作土である。

II層は層厚10~50cmを測る黒褐色土層で、地形が低くなる調査区東側一帯に堆積が認められる。地形の高い調査区北東側にも存在していたと思われるが、前述造成段階で完全に削り取られた状況が認められる。遺構はII層から掘り込まれているが不鮮明である。

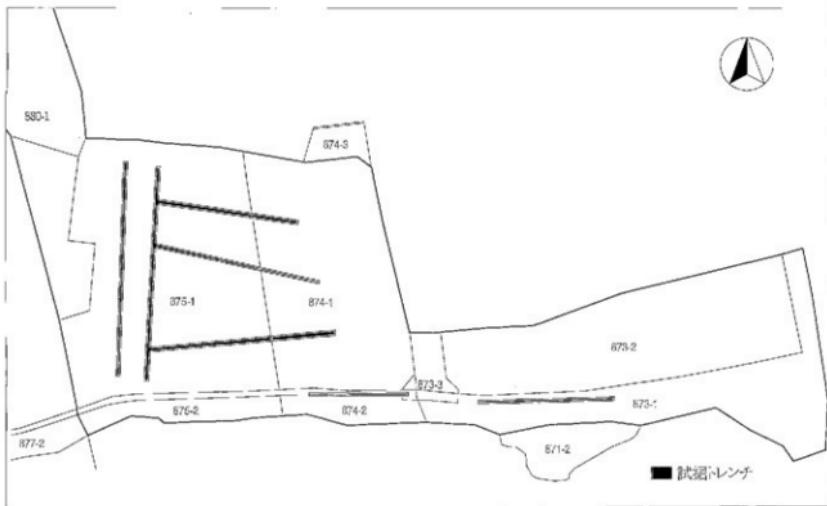
III層は浅間山の噴出物である第一軽石流の黄褐色ロームで、遺構の種類が明確にできる。調査区中央付近は、下層の白色及び淡い赤色ロームまで削り取られている。



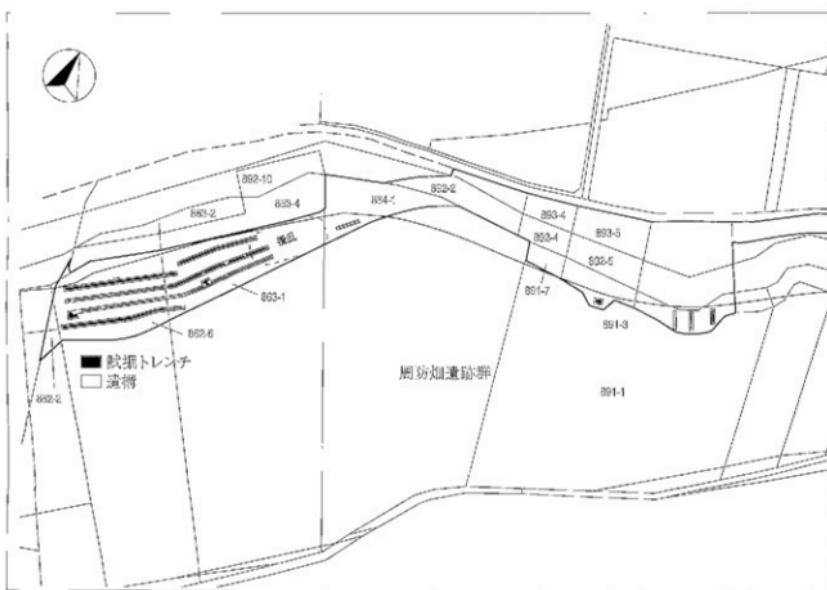
基本層序模式図



周防畠遺跡群 下北原遺跡工遺構配置図 (1:300)



新場施設予定地試掘調査図



流入道路及び代替地試掘調査図

### 第Ⅲ章 遺構と遺物

#### 第1節 壁穴住居址（H）

##### H 1号住居址

遺構はC-C'-3グリッドに位置する。主軸はN20°Wである。

平面形態はやや隅の丸い方形である。

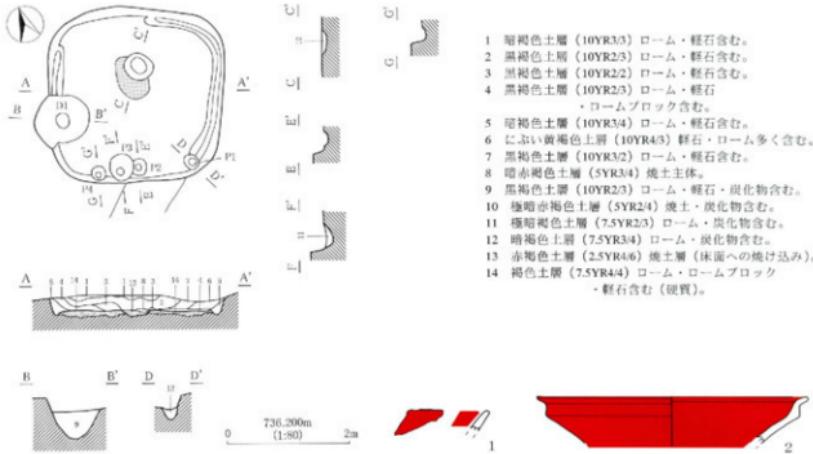
調査規模は長軸3.0m、短軸2.8mと小型で、検出面から床面までの深さは最深で30cmを測る。

覆土は暗褐色と黒褐色土主体で、周辺部から堆積した状況が認められることから自然堆積と考えられる。

構造上の特徴として、床は硬質面が存在するがやや凹凸感がある。壁際の一部に壁溝が認められた。主柱穴と断定できる明確なビットは存在しなかったが、南壁際に小ビットが存在した。入口に関係する可能性が窺える。床面中央のやや北寄りに径45cm、深さ8cmの炉が存在し、窪み及び炉の西から南側に接して床面が赤く焼けて硬質化していた。西壁には、僅かに壁から張りだす状態で掘り込まれた直径90cm、深さ50cmの円形を呈する土坑が存在する。掘方は厚さ5~8cmを測る硬質な層が認められた。

遺物は赤色塗彩の土器部品等が数片出土した。

本住居址の時期は、赤色塗彩された土器の形態及び住居址にカマドが認められず、炉が存在することから、古墳時代前期としたい。



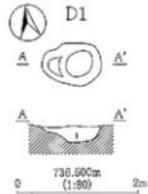
H 1号住居址遺構・遺物実測図

番号	遺構	基準	直径	底面	底面	底面	調査・文	地名・施設	備考
1	上部	基?	-	-	-	-	円筒形土色光沢	口御方	外付土器? 2枚共色 外付土器
2	下部	周界?	[20]	[20]	[20]	[20]	円筒形土色光沢	口御方	内付土器? 2枚共色 内付土器 N1303

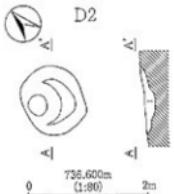
H 1号住居址遺物表

#### 第2節 土坑（D）

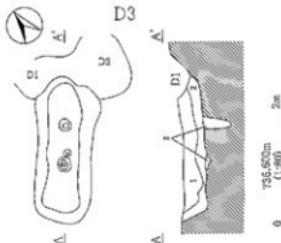
陥穴・貯蔵穴・ゴミ穴等と考えられる掘り込みである。ビットと区別するために、直径90cm以上2.5m未満の掘り込みを土坑として取り扱った。D5号土坑は縄文時代後期の土器が比較的まとまった状態で出土した。D3号土坑及びD4号土坑は掘り込みの形態及び底面に杭を差し込んだと思われる小ビットが存在すること、付近に縄文土器を出土したD5号土坑が存在することから縄文時代の陥穴と考えられる。



1 棕褐色土層 (10YR4/4) ローム多く、  
暗褐色土・軽石含む。



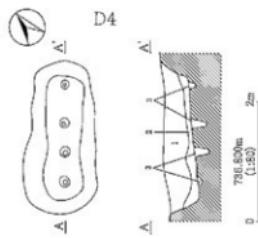
1 灰褐色土層 (10YR3/3) ローム  
・軽石含む。



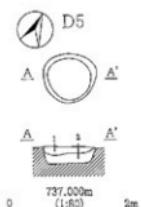
1 黑褐色土層 (10YR2/2) コーム・軽石・炭化物  
・ロームブロック含む。

2 棕褐色土層 (7.5YR4/4) ローム主体。軽石・暗褐色土含む。

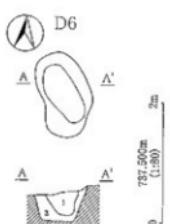
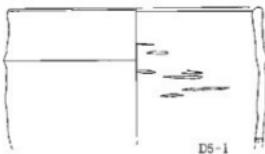
3 灰褐色土層 (10YR3/3) ローム・軽石含む。しまりなし。



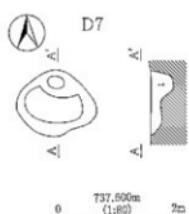
1 黑褐色土層 (10YR2/2) コーム・軽石  
・炭化物・ロームブロック含む。  
2 棕褐色土層 (7.5YR4/4) ローム主体。  
軽石・暗褐色土含む。  
3 灰褐色土層 (10YR3/3) ローム・軽石含む。  
しまりなし。



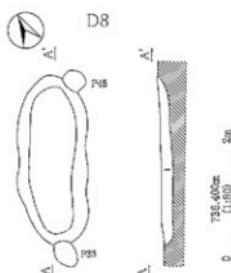
1 灰褐色土層 (10YR2/2) ローム  
・軽石・炭化物含む。  
2 棕褐色土層 (10YR4/4) ローム  
・軽石・炭化物含む。



1 黑褐色土層 (10YR2/2) ローム  
・ロームブロック・軽石含む。  
2 にぶい黄褐色土層 (10YR4/2) ローム主体。  
軽石・暗褐色土含む。



1 赤褐色土層 (7.5YR4/6) ローム  
・ロームブロック多く含む。



1 黑褐色土層 (10YR2/2) ローム・軽石  
・炭化物・ロームブロック含む。

#### 土坑構造・遺物実測図

遺物名	形 型	高さ(cm)	幅広(cm)	深さ(cm)	底 面	備 考
D1	円錐形	120	72	36	C4.3	C4を含む
D2	円錐形	128	108	36	C4.3	C4を含む
D3	(直門形)	94.0	113	45	C4.3	底が約10cmのビットでD1-D2に覆われる
D4	直門形	201	134	56	C4.1	底を約10cmのビットでD1-D2に覆われる

遺物名	形 型	高さ(cm)	幅広(cm)	深さ(cm)	底 面	備 考
D5	円錐形	122	88	28	B4.10	透視・直丈土部分
D6	不規則	135	90	35	A2.25	
D7	円錐形	135	115	40	A3.65	
D8	円錐形	200	120	30	C4.3	P2.4に覆われる

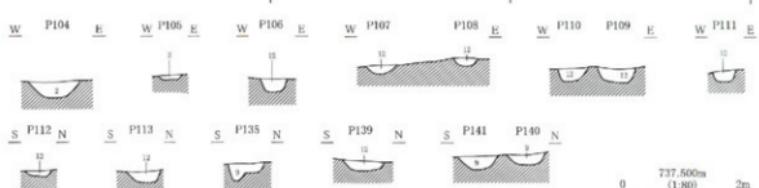
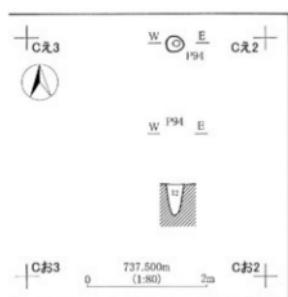
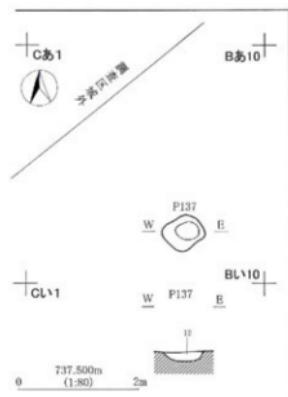
( )透視図 ( )横断面

番号	目 標	基 点	110km	点名	位 置	調 勘・文 書	地 形	備 考
1	周文太郎	基準	[21.3]	-	-	110kmナメ 岩鉄鉱 岩鉄鉱	110km-斜面端	八幡山(337.4m)周文太郎 東面天然
2	周文太郎	基準	-	63	-	表面等高線	斜面端	内側面(301.8m)周文太郎

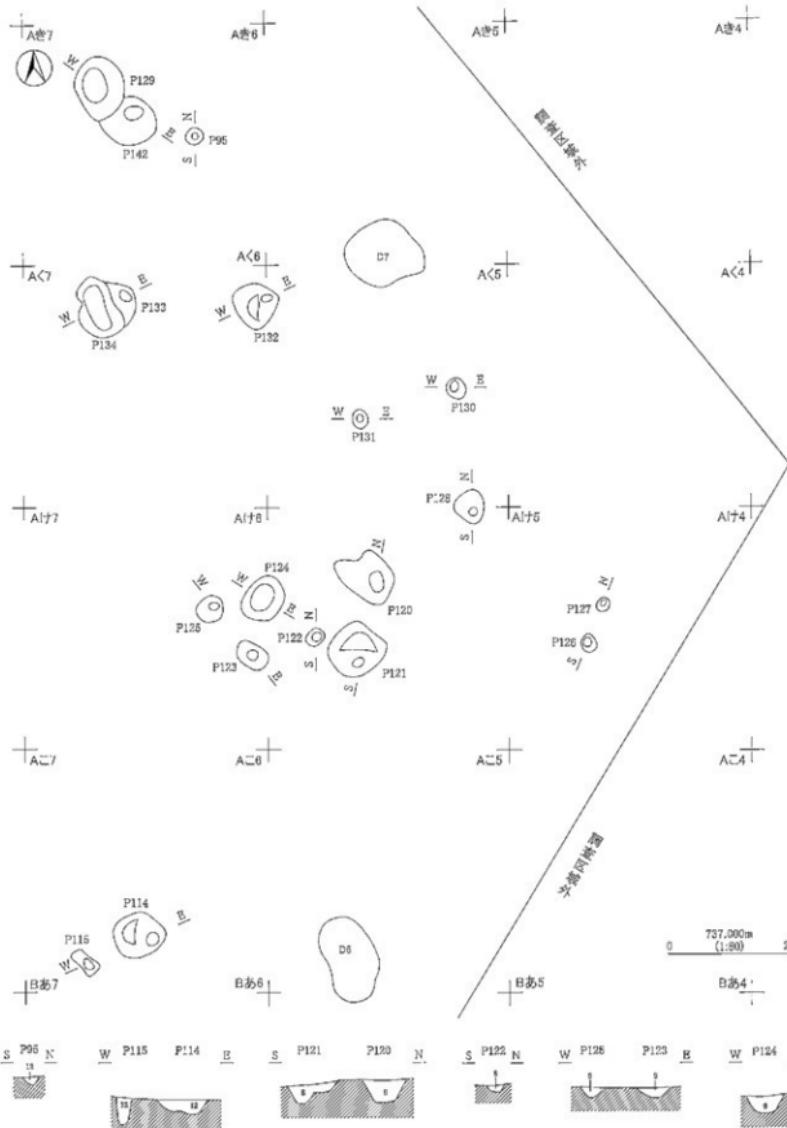
### D5号土坑遺物観察表

#### 第3節 ピット(P)

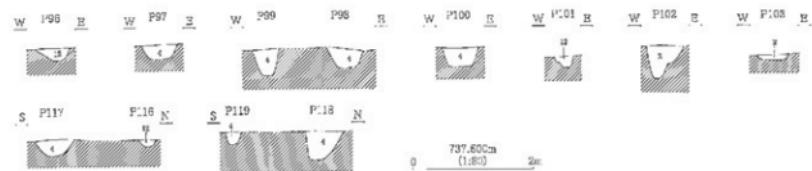
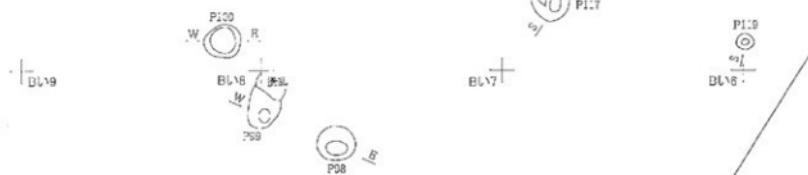
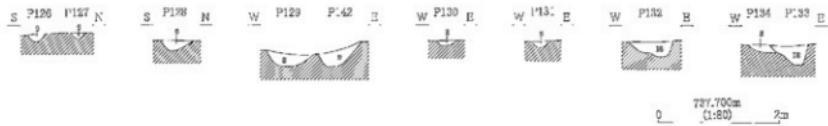
柱状のものを建てたと考えられる掘り込みで、掘立柱建物址のように規則性を持った配列を持たない単独の掘り込みである。土坑と区別するために、基本的に直徑90cm未満の掘り込みをピットとして取り扱った。



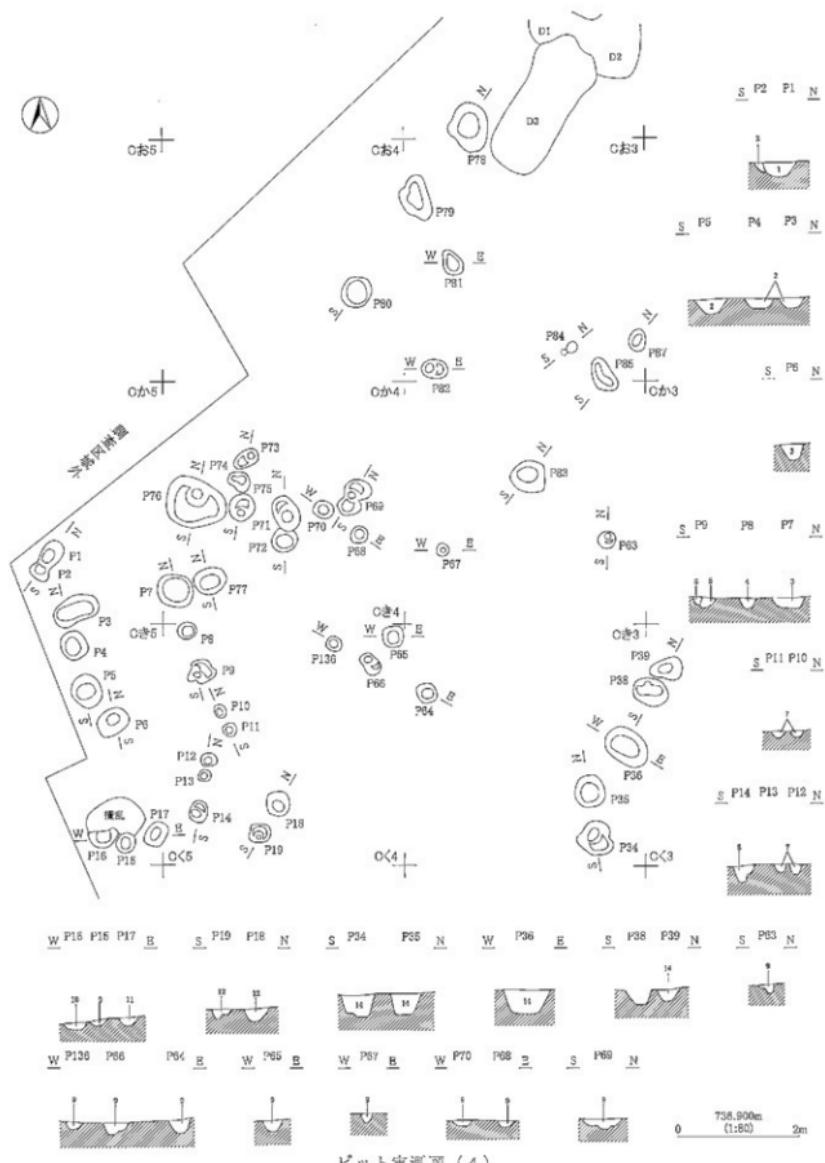
ピット実測図(1)

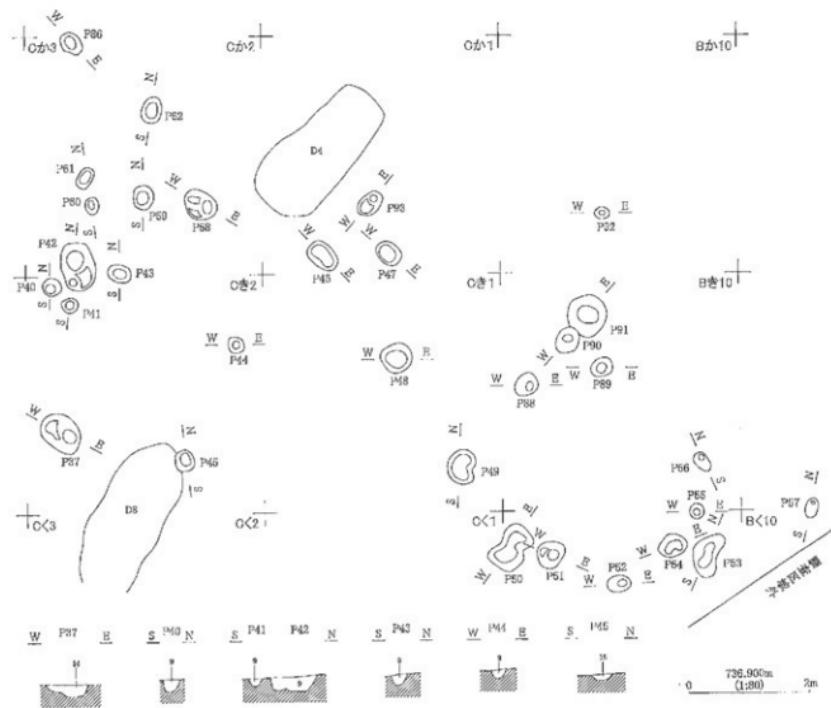
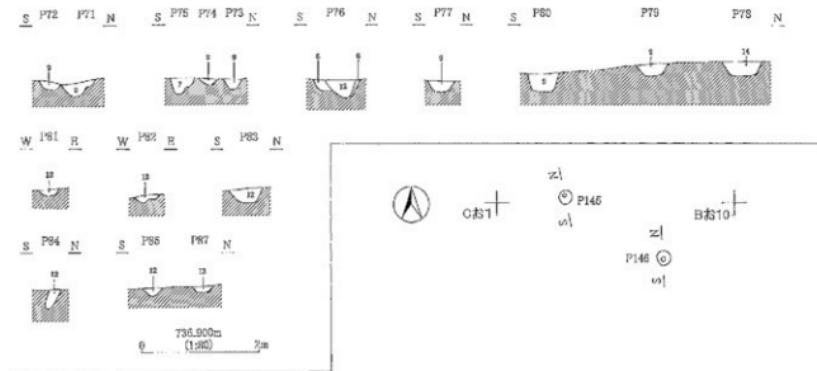


ピット実測図(2)

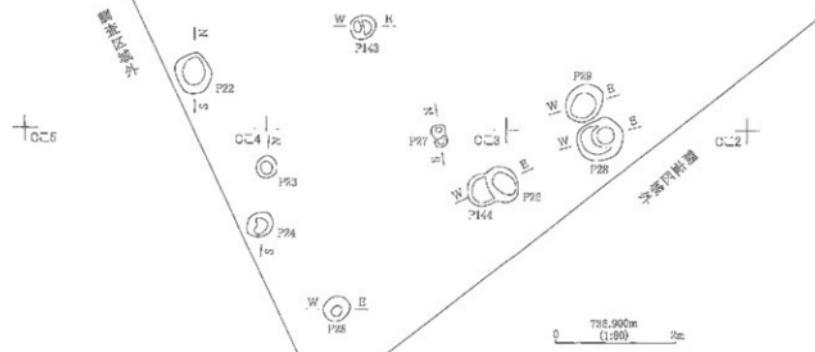
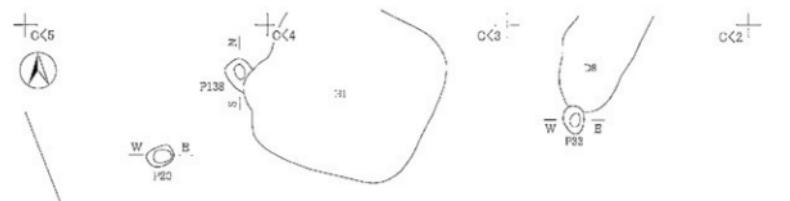
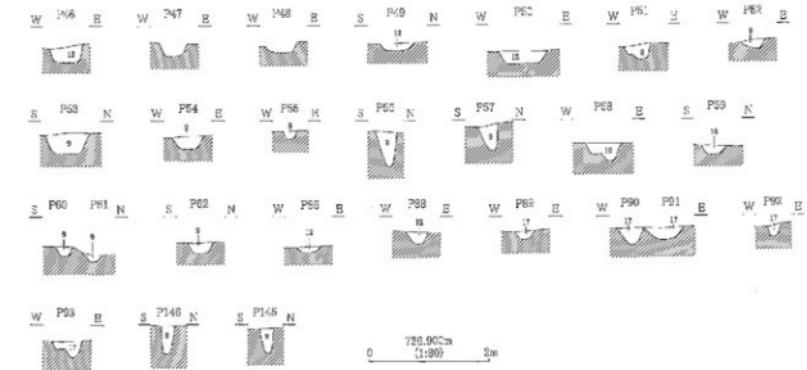


ピット実測図(3)





### ピット実測図 (5)



ピット実測図 (6)



### ピット実測図(7)

序號	名稱	長度(公尺)	體積(公升)	容積(公升)	性質	備註
P45	圓錐	33	22	—	C4.2	
P46	圓錐	20	26	—	C4.2	
P47	橢圓錐	23	55	—	C4.2	
P48	橢圓錐	41	36	—	C4.2	
P49	圓錐	18	21	—	C4.2	
P50	圓錐	26	26	10	C4.2	切口有缺口
P51	圓錐	36	43	—	C4.1	
P52	圓錐	45	35	—	C4.1	
P53	圓錐	56	14	—	C2.1	
P54	圓錐	62	47	14	C4.1	
P55	小圓錐	59	22	—	C4.0	
P56	圓錐	58	44	—	C4.0	
P57	圓錐	42	35	15	C4.0	
P58	圓錐	66	49	—	C4.0	
P59	圓錐	13	40	20	C4.0	
P60	圓錐	70	34	—	C4.0	
P61	圓錐	32	22	18	C4.0	
P62	圓錐	31	33	43	C4.0	
P63	圓錐	62	47	20	C4.0	
P64	圓錐	13	38	18	C4.0	
P65	圓錐	25	21	16	C4.0	
P66	方錐	25	23	13	C4.0	
P67	方錐	47	51	19	C4.0	
P68	方錐	40	33	15	C4.0	
P69	方錐	50	33	18	C4.0	
P70	方錐	20	20	12	C4.0	
P71	圓柱	20	20	12	C4.0	
P72	圓柱	40	35	16	C4.0	
P73	圓柱	22	22	18	C4.0	
P74	圓柱	30	20	12	C4.0	
P75	圓柱	49	20	16	C4.0	
P76	圓柱	36	33	11	C4.0	
P77	圓柱	60	43	17	C4.0	切口合上-27
P78	圓柱	44	36	18	C4.0	切口合上-21
P79	圓柱	46	32	18	C4.0	
P80	圓柱	45	27	12	C4.0	
P75	圓柱	40	44	27	C4.0	
P76	圓柱	100	82	32	C4.0	
P77	圓柱	35	45	20	C4.0	
P78	圓柱	53	68	26	C4.0	
P79	圓柱	45	32	18	C4.0	

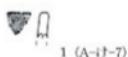
ピット観察表(1)

遺物名	形 塘	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	記 号	備 考	遺物名	形 塘	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	記 号	備 考
P173	不整形	77	47	20	C.6.3		P113	円形	66	35	20	A.2.7	
P180	円形	56	48	30	C.6.4		P114	円形	67	26	25	A.2.6	
P181	不整形	34	32	10	C.6.3		P115	円形	68	23	15	A.2.6	
P182	扇円形	45	31	12	C.6.3		P116	円形	36	34	12	B.6.6	
P183	方形	59	53	25	C.6.3		P117	円形	70	42	20	B.6.6	
P184	円形	21	18	30	C.6.3		P118	円形	64	27	30	B.6.6	
P185	扇円形	62	36	15	C.6.3		P119	円形	30	30	20	B.6.6	
P186	扇円形	41	32	10	C.6.2		P120	不整形	104	24	20	A.1.5	
P187	円形	36	29	10	C.6.3		P121	円形	100	94	32	A.1.5	
P188	扇丸方形	49	35	21	B.2.10		P122	円形	36	28	13	A.1.5	
P189	扇丸方形	49	32	14	B.2.10		P123	不整形	58	34	17	A.1.6	
P190	円形	67	38	25	B.2.10	切り合ひ - P190	P124	扇円形	79	61	20	A.1.6	
P191	円形	66	67	30	B.2.10	切り合ひ - P190	P125	円形	56	34	18	A.1.6	
P192	扇円形	25	18	20	B.2.10		P126	円形	32	25	14	A.1.6	
P193	扇円形	39	32	28	C.6.1		P127	円形	36	22	10	A.1.6	
P194	円形	39	29	50	C.6.2		P128	円形	56	49	18	A.1.6	
P195	円形	39	30	12	A.6.6		P129	扇円形	106	82	22	A.6.6	切り合ひ - P142
P196	円形	68	61	22	B.2.8		P130	円形	35	35	8	A.6.6	
P197	不整形	86	66	26	B.2.2		P131	円形	32	29	10	A.6.6	
P198	円形	61	44	35	B.2.7		P132	不整形	77	76	27	A.6.6	
P199	(扇円形)	84	50	46	B.2.8	複数に割り込まれる	P133	円形	16	26	22	A.6.6	切り合ひ - P143
P200	円形	63	56	32	B.6.8		P134	不整形	105	64	15	A.6.6	切り合ひ - P143
P201	円形	23	20	30	B.6.8		P135	扇円形	61	49	22	A.6.6	
P202	円形	66	65	56	B.6.8		P136	扇丸方形	26	24	14	C.6.4	
P203	方形	60	56	9	B.6.8		P137	不整形	73	62	15	B.6.8	
P204	扇円形	93	67	26	A.2.8		P138	(円形)	48	45	20	C.6.4	切り合ひ - H.1
P205	円形	43	42	16	A.2.8		P139	扇丸方形	70	62	18	A.2.7	切り合ひ - P120
P206	円形	46	46	22	A.2.8		P140	扇円形	73	56	20	A.2.7	
P207	扇円形	52	42	15	A.2.8		P141	円形	66	66	24	A.2.7	
P208	扇円形	40	31	15	A.2.7		P142	円形	93	83	33	A.2.6	切り合ひ - P120
P209	不整形	76	61	20	A.2.7		P143	円形	44	49	28	C.7.2	
P210	円形	52	50	22	A.2.7		P144	円形	56	46	12	C.2.3	切り合ひ - P120
P211	扇丸方形	39	39	18	A.2.7		P145	円形	36	36	40	B.1.0	
P212	不整形	90	42	10	A.2.7		P146	円形	28	28	45	B.1.0	

ピット観察表(2)

(一)実測解 (二)概観解

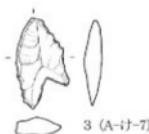
## 第4節 遺構外遺物



1 (A-i-7)



2 (B-う-7)



遺構外遺物実測図

番号	遺 物	形 塗	長 径	短 径	厚 度	調 整・文 種	周 長	面 积	備 考
1	網文土器	直筒	-	-	-	網文#	176mm	内輪約223mm×外輪約154mm 直筒式素盞 A.2.7-2アリッジ	
2	網文土器	直筒	-	-	-	網文#	176mm	内輪約197mm×外輪約142mm 直筒式素盞 A.2.7-2アリッジ	
3	石器	直	1.61	1.09	0.36	石器-直筒	6.37	0.99	刃端丸形 A.2.7-2アリッジ

遺構外遺物観察表



周防畠遺跡群 下北原遺跡Ⅱ調査区全景（北東から）



周防畠遺跡群 下北原遺跡Ⅱ調査区全景（南西から）



調査開始前状況（南西から）



表土除去作業（南西から）



調査風景・表土除去作業（南西から）



表土排出状況（西から）



排出上状況（西から）



ハウス等設置・駐車場整地等状況（北東から）



基準杭設定状況（南西から）



調査風景遠景（南西から）



調査風景（南西から）



調査風景（南西から）



調査風景（南から）



H1号住居址全景（南西から）



H1号住居址土坑



H1号住居址炉



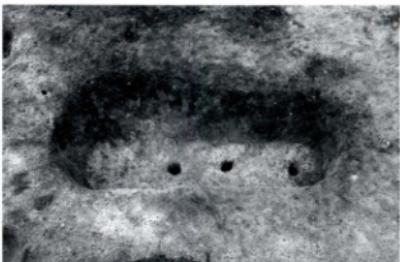
H1号住居址壁際ピット（北東から）



H1号住居址掘方（南西から）



D1·2·3号土坑全景（南西から）



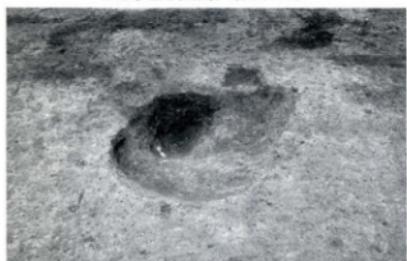
D4号土坑全景（南東から）



D5号土坑全景（西から）



D6号土坑全景（南から）



D7号土坑全景（南西から）



D8号土坑全景（南東から）



H1-1



H1-2



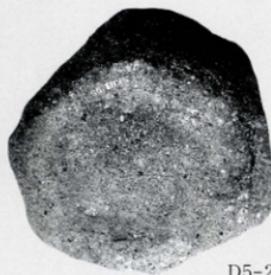
D5-1



遺構外-1



遺構外-2



D5-2



遺構外-3

ふりがな	すばうばたいせきぐん しもきたはらいせきに							
書名	周防畠遺跡群 下北原遺跡Ⅱ							
副書名	-							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第228集							
編著者名	上原 学							
編集機関	佐久市教育委員会文化財課							
所在地	長野県佐久市志賀5953 TEL 0267-68-7321 FAX 0267-68-7323							
発行年月日	平成26年(2014)12月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積m <sup>2</sup>	発掘原因	
すばうばたいせ きぐんしもきた はらいせきに	さくし ながとろ	20217	7	36° 1' 35"	138° 28' 14"	20140430 ~ 20140530	1,110	斎場施設建設説 事象(進入道路整備及び代替地の造成)
周防畠遺跡群 下北原遺跡Ⅱ	佐久市長土呂 862-6、863-1							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
周防畠遺跡群 下北原遺跡Ⅱ	墓葬	古墳・绳文	堅穴住居址1軒、土坑8基、 ピット146個	土器、石器	遺跡の状況が不明瞭で あった地域から縄文時代 の土坑、古墳時代前期の 住居址等を確認するこ とができる。			
要約	佐久市北部に島嶼した、浅間山の麓から放射状に延びる浸食谷に分断された田切り地帯の台地上に位置する遺跡である。本遺跡が所在する周防畠遺跡群北部地域は、南方の佐久平駅西側一帯の遺跡密度が北へ、発見される遺構数が希薄な地域で、遺跡の状況が不明瞭な地域であった。今頃、斎場施設建設事業に伴い、一部地盤から、 縄文時代の土坑、古墳時代前期と考えられる住居址1軒及び柱穴と思われる多段のピットが発見された。本調査区北西の浸食谷対岸に所在する雄田原遺跡(小諸市)及び北近率遺跡Ⅱでは、佐久地盤で確認される遺構数が少 ない、古墳時代前期の住居址が比較的まとまって発見されており、今回、浸食谷を隔てた、本遺跡で発見された單独の住居址との関連が興味深い検査となった。							

### 佐久市埋蔵文化財調査報告書 第228集

#### 周防畠遺跡群 下北原遺跡Ⅱ

平成26年(2014)12月

編集・発行 佐久市教育委員会  
 〒 385-8501 長野県佐久市中込 3056  
 文化財課  
 〒 385-0006 長野県佐久市志賀 5953  
 Tel 0267-68-7321

印刷所 白田活版株式会社  
 〒 384-0301 長野県佐久市白田 2016  
 Tel 0267-82-2109